

地域福祉活動計画は、私たちみんなの安心・安全で幸せな暮らしを地域がもつ力で実現させるための将来設計図であり説明書です。



「活かす」「組み合わせる」「育む」  
3つの視点で後押しする  
持続可能な循環型の地域福祉活動

# 第5次 熱田区地域福祉活動計画

令和6年4月～令和11年3月

「ぬくといつながら」のある暮らし。





# はじめに

## 計画の策定にあたって

第5次計画の策定にあたり、熱田区社会福祉協議会として大事なキーワードとしてとらえたものは「原点回帰」です。それは、第4次計画実施中である令和2年初頭から、新型コロナウイルス感染症の流行が地域活動に与えたインパクトがあまりに大きかったことに他なりません。これまで地域福祉活動で大切にされてきた「つながり」や「ふれあい」が著しく制限を受けることとなりました。一方で制限を余儀なくされたからこそ、「他者や社会とのつながり」や「誰もが役割をもてる居場所」の重要性を再認識することができました。地域社会や地域福祉の価値観が大きく変化する今の時代だからこそ「社協」という存在は地域にとってどのような存在であり、またどのようにあるべきかを出発点に帰り捉え直すタイミングだと思いました。「社協」は、地域住民で組織する各種団体や社会福祉関係事業者、行政機関、当事者団体、ボランティア等を構成員に持ち、「福祉のまちづくり」を目指して協議・実践を行う、まさに「地域福祉を推進するための住民を主体とした組織」そのものです。私たち、住民一人ひとりが「私たちの住む熱田区」のまちづくりの担い手として、様々な関係機関と協力しながら、地域共生社会の実現を目指し、この第5次地域福祉活動計画を進めていきましょう。



熱田区社会福祉協議会  
会長 中田 俊夫

## 区民が活用し利用できる計画を目指して

私たちの愛する熱田が住みやすく笑顔溢れるまちであり続けるために、第4次計画では、困ったときにヘルプが言えること、そして、そのヘルプに気づき手を差し伸べてくれる人達との付き合いがあることが重要と考えました。とはいえ、そのために「常に誰かとつながっていなければならない」というのでは、それを負担に感じる人は少なくありません。そこで、過度な負担がかからない緩やかなつながりを表す「ぬくといつなかり（温といつなかり）」をキャッチフレーズにしました。そして、地域における「つながり」を資源として捉え、さらにはその資源が豊かである様子を「もり(森・杜)」に見立てて、豊かな土壌からたくさんの木々が育ち、新陳代謝を繰り返しながら歴史を刻んでいく「もり」の特性を生かした計画を立案しました。



第5次計画作業部会  
リーダー 中田 素生

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大により、当該計画だけでなく、すべての社会活動が停滞を余儀なくされてしまいました。瀕死の状態に陥ったかに思われた私たちの「もり」でしたが、そうした大きな嵐に見舞われてもなお、木々からは新芽が力強く顔を出していました。

第5次計画は、第4次計画で実現できなかった取り組みをリスタートさせるとともに、そうした芽を育て、育った「つながり」を利用していくことで、「もり」に必要な手入れを行い守っていくこと、すなわち、持続可能な循環型の地域福祉活動を後押しする場や機会の創出を意図して策定しました。この計画を区民一人ひとりが活用し、場や機会が利用されることを切に願っています。





# 目次

|                                    |      |
|------------------------------------|------|
| 第5次計画の策定にあたって .....                | p.1  |
| 「ぬくといつながりのあるまち」を実現するための3つの視点 ..... | p.3  |
| 第5次計画の概要 .....                     | p.9  |
| 第5次計画の推進体制 .....                   | p.10 |
| 第5次計画の評価 .....                     | p.11 |
| 第5次計画の体系図 .....                    | p.13 |
| 第5次計画で「やってみたい！」プロジェクトのアイデア .....   | p.14 |
| 資料 .....                           | p.15 |



# 第5次計画の策定にあたって

## 地域福祉活動計画とは

私たちは生きていくうえで、子育てや介護、災害、犯罪、孤立など、様々な課題に直面する可能性をもっています。近年では、町内会・自治会役員のなり手の不足や地域活動の担い手の高齢化といった問題にみられるように、従来そうした課題の解決や改善に寄与してきたとされる「地域での支えあい」が脆弱化してきており、私たち一人ひとりが地域で安心・安全に暮らし続けるために必要なことは何かについて考え、地域一体となって行動を起こすことが求められています。

地域福祉活動計画は、私たちみんなの安心・安全で幸せな暮らしを、地域がもつ力で実現させるべく、私たち地域の住民、相談支援機関、活動団体、社会福祉法人、福祉サービス事業者など、みんなで連携・協働して取り組んでいくための方向性や具体的な取り組み方を示した将来設計図であり、説明書であるといえます。

## 統計データから見た熱田区

「名古屋市の世帯数と人口－推計人口－(令和6年2月1日現在)」によると、熱田区の人口は6万6,932名(男性3万3,338名、女性3万3,594名)であり、戦後のピークであった昭和39年の9万1,518名からは大きく減少していますが、平成12年の6万2,625名から微増傾向にあります。

翻って、「各区の人口調(令和5年3月31日現在)」によると、熱田区の人口は、名古屋市の16区中最も少ない16位であるものの、例えば、高齢化率は26.6%で4位(要介護者の割合は13.4%で12位、要支援者の割合は6.8%で8位)、被保護世帯の割合は2.9%で8位、外国人住民世帯の割合は4.0%で8位であり、また、「名古屋市各種障害者手帳所持者数(令和4年度末現在)」によると、障害者手帳所持者(延べ数)は6.0%で6位となっています。一方、「名古屋市社会福祉協議会ボランティアセンター令和3年度事業実績」によると、地域住民の福祉意識や共生の意識を高めるための「なごや出張福祉学習」の実施件数(令和3年度累計)は0件で16位(最も多かったのは昭和区の5件)、市内の小・中・高・特別支援学校や地域団体を対象とした「福祉教育・ボランティア学習」の実施件数は3件で15位(最も多かったのは名東区の17件)でした。ただし、これら学習の実施件数については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮する必要があります。

とはいえ、以上を鑑みますと、「他の区と比較して数値が悪いから問題だ(逆に、数値が良いから問題ない)」ということではありませんが、私たちの地域には多様な人々が暮らしていること、課題を抱えている(あるいは抱えるリスクの高い)人たちが少なくないこと、そして、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、そのような状況やリスクに対する理解を深めたり備えたりする場や機会が遠ざかっている様子を窺い知ることができます。

## これまでの計画と私たちが目指す「地域の姿」

計画の嚆矢となった第1次計画では、「やろうよ、あったかあつた」を合言葉に、地域福祉の拠点づくりや熱田区社会福祉協議会の基盤体制の整備に取り組みました。第2次計画では、「いっしょにやろうよ、あったかあつた」を合言葉に、機関誌の作成や福祉フェスタの開催など、地域福祉活動に携わる人たちの裾野を広げることに力を注ぎました。そして、第3次計画からは、地域における「つながり」に着目し、地域での仲間づくりや仲間内での活動を地域へつなぐ「橋渡し」に取り組んできました。なお、第3次計画までは、「熱田区社会福祉協議会第〇次活動計画」のように、「社会福祉協議会」を冠した名称になっていましたが、この計画の主体が私たち地域の住民であることをより明確にするために、第4次計画からは「区名」を冠した名称になっています。

### 理想は「ぬくといつなぎ」のあるまち

さて、「福祉」という言葉には、「幸せ」という意味が含まれています。「幸せ」のカタチは人それぞれですが、果たして「地域福祉」、すなわち「地域の幸せ（地域で生活を営む私たちの幸せ、地域の力によって実現すべき私たちの幸せ）」とはどういうこと（もの）なのでしょう。最も基本的な問いですが最大の難問でもあります。

そこで第4次計画では、熱田区らしい「自分たちの地域福祉のあり方」について検討を重ね、熱田区をどんな地域にしていきたいのか、理想の地域像を描き出しました。



私たちが地域で幸せに暮らしていくためには、困ったときにヘルプが言えること、そして、そのヘルプに気づき助けてくれる付き合いがあることが大事な要素となります。とはいえ、そのために「常に誰かとつながっていなければならない」となると、誰かとつながること自体を負担に感じてしまう人もいます。大切なのは「つながりたい時につながることができる」こと、つまり、①助けとなる「つながり」が地域にあること、②その「つながり」の情報を持っていること、③その「つながり」から排除されないこと、これらの条件を満たした（満たせる）地域であることです。

そこで私たちは、過度な負担がかからない、でも、いざという時は助けとなる緩やかなつながりを「ぬくといつなぎ（温といつなぎ）」と名付けて、誰もがぬくといつなぎることができる（つながっている）「ぬくといつなぎのあるまち」を目指すべき基本理念として設定しました。



# 「ぬくといつながりのあるまち」を実現するための 3つの視点

本計画では、第4次計画の基本理念や方針を継承し、先述した「ぬくといつながりのあるまち」を実現させるため、多様な生物が共生する「森」と人々が手を入れて育ててきた「杜」、これらの「もり」を豊かにする方法からヒントを得た「活かす」「組み合わせる」「育む」からなる3つの視点に基づいて活動を企画・展開していきます。



## 1 活かす

私たちが暮らす「もり」には、これまで育まれてきた多くの活動とそれらを育んできた人々の知識や経験といった豊かな資源があります。それら既存の「地域の力」を活かします。

## 2 組み合わせる

例えば、蜂が植物の蜜を食べその体に花粉をつけて運んだり、桜が葉を食べようとする動物を排除するために自らの蜜を蟻に提供したり、「もり」には多種多様な生物が生息し、多様な共生関係を築いています。多様な主体間の橋渡しや他の計画・制度・行政サービス等との連携を図ります。

## 3 育む

豊かな「もり」には、豊かな土壌があります。豊かな土壌が生物を潤し、生物が土壌を豊かにします。こうした循環がなければ、「もり」は疲弊し、やがて資源は枯渇します。「地域の力」を持続可能な資源として未来へとつないでいくために、地域が抱える課題の共有や福祉教育を推進します。



### 3つの視点に基づいた取り組みの例

ここでは、先に述べた 3 つの視点に基づいた取り組みについて具体的なイメージが描けるように、第4次計画での取り組みの一部を紹介します。

3つの視点

シンフォニー × つむぎこむぎ「販売会コラボ」

活かす

組み合わせる

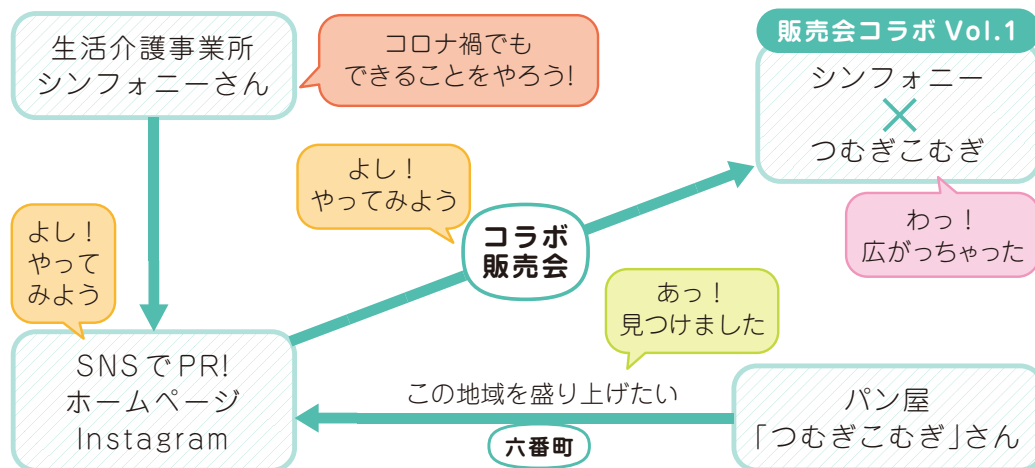
育む

2021年に「存在とアートでご縁を！」をテーマとしてスタートした生活介護事業所シンフォニーと「いろいろな人たちの想いを紡いでいきたい」という思いと地域密着を掲げてスタートしたパン屋の「つむぎこむぎ」さん。

熱田区六番町という恵まれた土地の中で、地域の人とのつながりができないかとお互いに考えていた時に、「つむぎこむぎ」の店主さんからインスタグラムを通じて DM がシンフォニーに送られてきました。メールの内容は、「この地域を盛り上げたくこの地域で活動されているみなさんにご挨拶にうかがっているのですが、もし迷惑でなければご挨拶にうかがっても差し支えないでしょうか？営業ではなくただのご挨拶です。」と・・・

その後挨拶に来て頂いてから、私たちは何か一緒にできないかと思い、両者の思いが一致し、毎年春と秋にイベントを企画しコラボ販売会の共同開催企画を提案しました。今年はさらなる発展のために6月に六番町に関わる人やお店の人たちと「レインボーマルシェ in 六番町」というイベントを開催することになりました。

（文：生活介護事業所シンフォニー 竹田篤史）



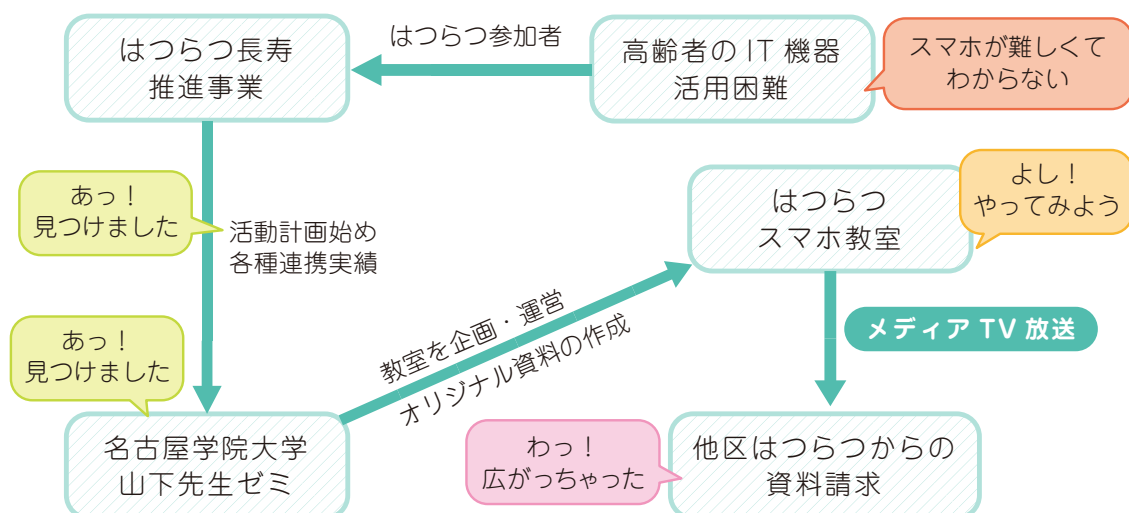
# 大学生が教えるスマホ教室

「スマホを持っているが使いこなせない。」  
「コロナ禍でなかなか会えなくなってしまった家族と SNS でやり取りしたい」こうしたお悩みを抱える方が多くいらっしゃるの声をに応えるべく、「デジタルネイティブ世代」とされる大学生たちがその知識を活かして「スマホ教室」を開催しました。

講師を務めることとなった学生たちは、「使っているのは iPhone かな？ Android かな？」「LINE は入っているのかな？」「そもそも Wi-Fi に接続できるのだろうか？」など、色々と想像を膨らませて、当日のプログラムと教材を作成しました。いざ当日、「それガラケーです…」というケースもありましたが、「こういうことできる？」「次はどうやればいい？」と積極的に質問をされる参加者のみなさんとそれらの質問に懇切丁寧に答えようとする学生たちの姿が。最初は「Wi-Fi って何？」と仰っていたのに、SNS でお友達登録して写真を送り合えるようになった方もいらっしゃいました。ちなみに、上記「ガラケーだった方」は、学生との会話を楽しんで過ごされました。

この教室は、熱田区社会福祉協議会が高齢者の自主活動や地域活動等への参加促進を図ることを目的に実施している「高齢者はつらつ長寿推進事業（おひさまクラブ）」と名古屋学院大学が地域の課題解決と新たな地域価値を編集できる力をもった大学としてのブランドを確立することを目的に実施している「私立大学研究ブランディング事業」を「組み合わせる」ことで実現しました。

（文：名古屋学院大学現代社会学部准教授 山下匡将）



# 地域福祉推進協議会 × 障害者自立支援連絡協議会 ボランティア養成講座

活かす

組み合わせる

育む

障がいのある人にとっては、地域の方たちが理解してくださることが大変うれしく、また暮らしやすくなることと思います。毎年行われている「白鳥学区ボランティア養成講座」は障害のある人への理解や接し方を少しでも知ろうとする素晴らしい講座です。



身体障害だけでなく、知的障害や精神障害についての内容も取り入れていただき、

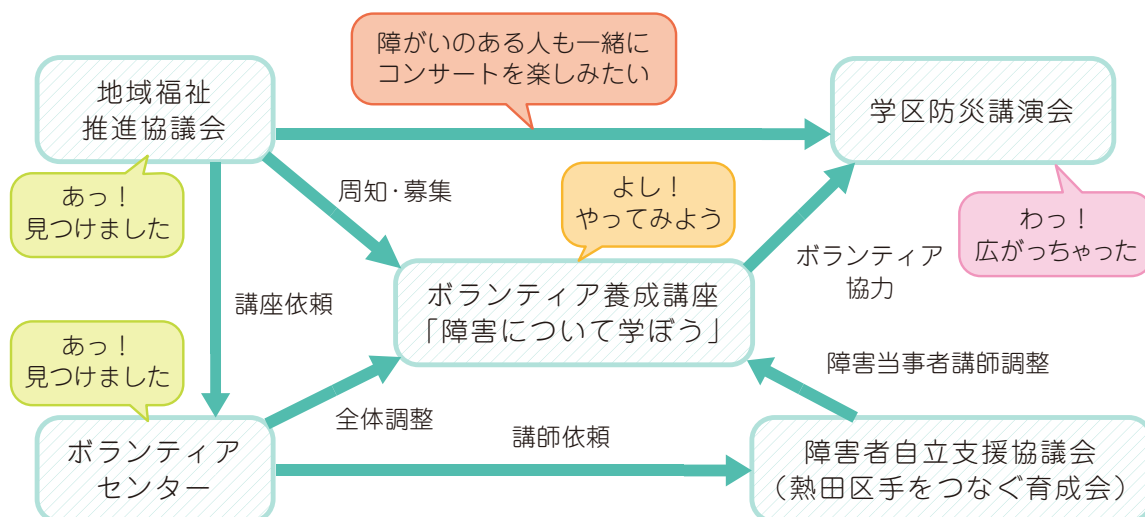
昨年は「～知的障害・発達障害のある人の理解のために～」というテーマで、「なごやキャラバン隊やろまいか」の講習会を開催してくださいました。名古屋手をつなぐ育成会は知的に障害がある人の親と支援者の会で、地域に知的障害や発達障害の理解啓発活動をしています。今回は白鳥学区の民生委員児童委員さん、学区の区政さん、町内会の役所について見える方々、社協の職員さんの参加がありました。

内容は

- 知的に障害がある人って・・・？〈知的に障害がある人の特性の説明〉
- 疑似体験「かいてみよう」「みてみよう」「きいてみよう」「作ってみよう」
- 「こんな時どうする？ 障害のある人を理解し配慮のある接し方をするガイドブック」の説明等です。

“障害のある人にとって周りの人への理解啓発の想い”が、第5次地域福祉活動計画「ぬくといつながらのあるまち」の3つのアプローチ①活かす②組み合わせる③育むの支援プロジェクトとして熱田区的全学区に広がっていくよう活動が続けていきたいと思います。

(文：熱田区手をつなぐ育成会 奥村幸子)





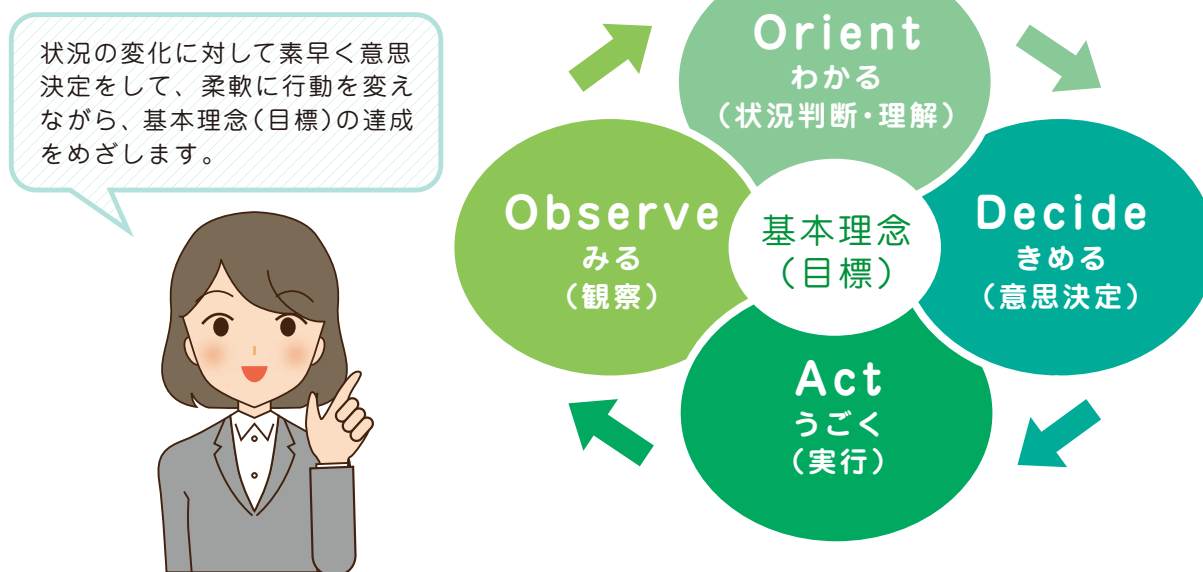
## OODA ループとプロジェクト型地域活動

第3次計画までは、計画策定時に立てた企画の実行と改善を通して徐々に当該企画のブラッシュアップやレベルアップを図っていく「PDCA サイクル」に基づいた活動、すなわち「Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）」を意識した「5年間の計画期間を通じて取り組む企画」を検討していました。とはいえ、PDCA サイクルは、安定した環境での品質管理（計画では「活動の質」の管理）や一定期間かける取り組みなどに適しているものの、変化が起こりやすい、変化のスピードが速い環境やスピーディな意思決定には不向きとされています。それを補うのが「Observe（観察）→Orient（状況判断）→Decide（意思決定）→Act（行動）」のループを高速で回転させる「OODA ループ」に則った活動です。

第4次計画は、OODA ループとの親和性が高い「プロジェクト型地域活動」の推進を意図した計画でした。具体的には、「計画でやりたいこと」や「計画で取り組むべきテーマ」を見つけたその都度、「よし！やってみよう」の精神で企画（プロジェクト）を立ち上げ、目的が達成すれば解散するという方式を採用しました。

本計画も、第4次計画と同様の方式を採用し、「プロジェクト型地域活動」を推進します。

### ●OODA ループイメージ



①社会が急激に変化し続ける中、地域においても制度やサービスはもちろん、人やモノ、繋がりや関係性、意欲など状況は常に変化し続けています。地域社会や住民、関係機関等が、今こういった状態にあるのかを まずはよく観察（Observe）します。

②観察した内容をもとに、なぜその状態にあるのか、そして今後どんな状態になると見込まれるのか、周辺を含めそれはこういった状況であるのかの判断を行い（Orient）、どんな変化が起きることが目標達成に近づいていくのかを理解します。

③状況判断を行い、状況がわかり、方向性が決まったら、次は具体的にどんな行動をするかの意思決定（Decide）を行います。

④最後はもちろん実行（Act）です。そして、何かを実行すれば必ず何らかの変化が起きます。大きな変化もあれば小さな変化もあります。望ましい変化になる場合もそうでない場合もあります。しかし必ず変化は起きます。その変化を見逃さない様によく観察（Observe）する必要があります。



## 第5次計画に託された課題

第4次計画は、「プロジェクト型地域活動」の方式を採用したことにより、期せずして、新型コロナウイルス感染症拡大の影響下においても、多様なアイデアと創意工夫によって地域活動を継続させることができました。

しかしながら、第3次計画までのやり方を大きく変更したことで、これまでとは異なる課題が生まれており、第5次計画ではそれらの課題を解決・改善することが求められています。

「やりたいこと」をやりたいようにやったが、それが「活動計画の取り組みである」という実感が持てなかった。

「つなげるアイデア」はたくさん挙がっていたのに、新型コロナウイルス感染症の拡大により、実現できなかったものがまだ多く残っている。

ほとんどのプロジェクトが活動計画に関わっているメンバー内で完結してしまっていて、広がりには欠けていた(閉じたプロジェクトになってしまっていた)。

「活動計画」自体の認知度が低く、計画の存在を知っている人だけが活用できるような状況に陥っていた。

「やりたいこと」が無い(思いつかない)場合、活動計画に参加しにくい。

プロジェクトが生まれやすい(取り組まれやすい)地域とそうでない地域という地域差がある。

自分が関わっているプロジェクト以外の情報が入ってこず、活動計画の取り組み全体が把握しにくい。

自分たちの活動が「ぬくといつながら」を生み出すことにつながったのかよくわからない。



# 第5次計画の概要

ここまでの内容をまとめると、本計画の概要は、以下の通りとなります。

## 期 間

令和6年4月～令和11年3月

## 基本理念(※第4次計画からの「熱田区地域福祉活動計画」が掲げる基本理念)

「ぬくといつなりのあるまち」の実現

＜キャッチコピー(※「第5次熱田区地域福祉活動計画」のキャッチコピー)＞

「ぬくといつなり」のある暮らし。

## 目 標

- 困ったときにヘルプが言えるまち
- ヘルプに気づき助けてくれるまち
- つながりたい時につながるができるまち

## 到 達 点

- 私たちみんなの助けとなる「つながり」が地域にある。
- 「つながり」の情報を私たちみんなが持っている。
- その「つながり」から誰も排除されていない。
- その「つながり」自体が私たちみんなにとって過度な負担となっていない。

## 方 法

以下「3つの視点」に基づいたプロジェクト型地域活動の推進

### ①活かす

既存の活動や地域の人々の知識や経験といった「地域の力」を活用する。

### ②組み合わせる

多様な主体間の橋渡しや他の計画・制度・サービス等との連携を図る。

### ③育む

地域が抱える課題の共有や福祉教育を推進する。

## 第5次計画の推進体制

前頁でまとめたように、本計画は「プロジェクト型地域活動」を「OODA ループ」に則って展開していくことになります。とはいえ、「第5次計画に託された課題（p.8 参照）」で取り上げたように、そのやり方には「活動計画の取り組み全体が把握しにくい」「活動が『ぬくといつながり』を生み出すことにつながったのかよくわからない」といったデメリットも少なくありません。そこで重要となるのが、「PDCA サイクル」に基づいた「5年間の計画期間を通じて取り組む企画」を計画するという第3次計画までのやり方です。

本計画では、OODA ループに則った「プロジェクト型地域活動の推進」と並行して、「プロジェクト型地域活動の推進体制の整備・充実」をPDCA サイクルに基づいて実行します。つまり、5年間の計画期間を通じて、プロジェクト型地域活動を推進できる（推進しやすい）地域の基盤（プラットフォーム）づくりに取り組みます。具体的には、以下の3つを実施します。

### 1 「熱田区地域福祉推進会議」の設置および「つながりあったかいぎ」の開催

本計画および本計画にかかるプロジェクトの進捗確認や後述する「応援したいプロジェクト」の認定の場として、「熱田区地域福祉推進会議」を設置します。また、地域の課題について情報を共有し、参加者が主体となってその解決に取り組むきっかけづくりや本計画だけでなく地域において取り組まれている活動の成果報告の場として、「つながりあったかいぎ（つながり熱田会議）」を開催します。

### 2 「つながりメンバー」の募集および「つながりマネージャー」の発掘

地域福祉活動計画の主体は、私たち地域の住民、相談支援機関、活動団体、社会福祉法人、福祉サービス事業者など、いわゆる「ステークホルダー」と呼ばれる「みんな」です。本計画では、本計画の趣旨に賛同し応援してくださる「つながりメンバー」を募集し、そのなかからプロジェクト型地域活動を引っ張っていった下さる「つながりマネージャー」を発掘します。

【目標値】

- つながりメンバー登録者数 5年で200名
- つながりマネージャー登録者数 5年で50名

### 3 「応援したいプロジェクト」認定制度の創設

本計画が立ち上げたプロジェクトだけが「ぬくといつながり」の構築に寄与する訳ではありません。「ぬくといつながり」に資する活動について、つながりメンバーの内外から広く推薦を受け付け、本計画のプロジェクトとして応援や連携・協働するための認定制度を創設します。

【目標値】

- 応援したいプロジェクト認定件数 5年で50件

## 第5次計画の評価

本計画の評価にあたっては、プロジェクトの「目標達成度」、「妥当性（「ぬくといつながり」を生み出す取り組みであったか）」と「有効性（「ぬくといつながり」を生み出すことができたか）」とともに、本計画への地域の皆さん（ステークホルダー）の「協力度」といった観点から、総合的に検証します。そのために、以下の指標を資料として用います。

個人がもつ「つながり」を評価するために…

### ●「ぬくといつながり尺度」得点

「ぬくといつながり尺度」は、第4次計画で作成した「地域住民一人ひとりがもつ『ぬくといつながり』の状態を数値で（定量的に）評価できる尺度」です。A～Fのつながりをまんべんなく、かつ「③」の水準で有していることを本計画では「ぬくといつながりがある」としています。

| 熱田ぬくといつながり尺度                                                |                     |                             |                      |                         |    |
|-------------------------------------------------------------|---------------------|-----------------------------|----------------------|-------------------------|----|
| 以下の問A～Iについて、現在、あなたがもつ「つながりの程度」に最も近い表現の番号(①～⑤)を回答欄に記入してください。 |                     |                             |                      |                         |    |
| 問A「家族」とのつながり                                                |                     |                             |                      |                         | 回答 |
| ① あいさつをしない                                                  | ② 用事があるときだけ会話する     | ③ 普段から日常会話をする/ 普段の行動を把握している | ④ 感謝の気持ちを声に出して伝えている  | ⑤ 深刻な悩みを相談する/ 相談される     |    |
| 問B「友人」とのつながり                                                |                     |                             |                      |                         | 回答 |
| ① 友人と呼べる人がいない                                               | ② SNSや年賀状だけの付き合い    | ③ 直接会って遊ぶ・話をする              | ④ 悩みを相談する/ 相談される     | ⑤ 家事や育児などの手伝いを頼める/ 頼まれる |    |
| 問C「同じ状況にある方々(同じ悩みや関心事をもつ方々)のグループ」とのつながり                     |                     |                             |                      |                         | 回答 |
| ① 周りにいない                                                    | ② グループの存在(所在)を知っている | ③ 会合に参加している                 | ④ 会合以外で個別に連絡を取り合っている | ⑤ 困ったときに助けを頼める/ 頼まれる    |    |
| 問D「ご近所さん」とのつながり                                             |                     |                             |                      |                         | 回答 |
| ① 顔も名前もわからない                                                | ② あいさつや会釈を交わす       | ③ 軽い日常会話をする                 | ④ 井戸端会議に参加する         | ⑤ 家事や育児などの手伝いを頼める/ 頼まれる |    |
| 問E「町内会」とのつながり                                               |                     |                             |                      |                         | 回答 |
| ① 町内会に加入していない                                               | ② 町内会に加入している        | ③ 行事には参加する                  | ④ 組長やサロンの世話役などを担っている | ⑤ 会長や会計などの役員を務めている      |    |
| 問F「(家族以外の)親族」とのつながり                                         |                     |                             |                      |                         | 回答 |
| ① 連絡を取っていない                                                 | ② 冠婚葬祭や年賀状だけの付き合い   | ③ たまに電話等で連絡をとる              | ④ よくお互いの家を行き来する      | ⑤ 育児や介護などの手伝いを頼める/ 頼まれる |    |



地域がもつ「つながり」を評価するために…

●「つながりメンバー」登録者数

本計画では、本計画の趣旨に賛同し応援してくださる方を「つながりメンバー」として募集します(p.10 参照)。その登録者数を指標として利用します。

●「応援したいプロジェクト」認定件数

本計画では、本計画が立ち上げたプロジェクトだけでなく、「ぬくといつなぎ」に資する活動についての推薦を広く受け付け「応援したいプロジェクト」として認定します(p.10 参照)。その認定件数を指標として利用します。

●「ぬくといつなぎマップ」登録件数

「ぬくといつなぎマップ」は、地域の資源の把握・発掘、「活動したい人と出来る場所」や「困っている人と力になれる人」などのマッチングを支援することを目指し、第4次計画で制作したマップです。ジャンルを問わず誰でも登録できるところに特徴があります。その登録件数を指標として利用します。



# 第5次熱田区地域福祉活動計画 体系図



## 第5次計画で「やってみたい！」プロジェクトのアイデア

本計画で現在「やってみたい！」と考えているプロジェクトの一覧です。興味のあるプロジェクトが見つかった方は、是非、「つながりメンバー(p.10 参照)」として登録してください。一緒に活動しましょう！

| No. | プロジェクト名                        | やってみたいこと                                           |
|-----|--------------------------------|----------------------------------------------------|
| 1   | 健康講座プロジェクト                     | 健康や薬などをテーマにした講座を開催したい！                             |
| 2   | スマホ講座プロジェクト                    | 高齢者向けのスマホ講座を実施したい！                                 |
| 3   | とことんボッチャプロジェクト                 | ボッチャによる交流会を開催したい！<br>ボッチャ審判員を養成したい！                |
| 4   | 六番町まつりプロジェクト                   | 六番町を盛り上げたい！                                        |
| 5   | バンドでつながるプロジェクト                 | 熱田フェスを開催したい！                                       |
| 6   | 神宮商店街プロジェクト                    | 商店街を活性化したい！                                        |
| 7   | あった〇活用プロジェクト                   | 授産製品の販売会を活性化したい！                                   |
| 8   | 学校と縁結びプロジェクト                   | 区内の高校や専門学校とつながりたい！                                 |
| 9   | 情報収集プロジェクト                     | 様々な分野の情報を一つのツールに集約させたい！                            |
| 10  | バリアフリーな熱田区ツアープロジェクト            | 誰もが楽しめるスタンプラリー等を作成したい！                             |
| 11  | 防犯啓発活動プロジェクト                   | 悪徳商法や振り込め詐欺の被害を防ぎたい！                               |
| 12  | ミニコミ誌作成プロジェクト                  | 役立つ情報を診療所や薬局等で配布したい！                               |
| 13  | みんなで防災プロジェクト                   | 年齢や障害の有無を問わないワークショップをしたい！                          |
| 14  | まちのおしゃべりカフェプロジェクト              | 福祉施設等で作った食品を使ったカフェを開きたい！<br>孤食を解消したい！              |
| 15  | ミニ映画館開館プロジェクト                  | 楽しい時間を共有したい！                                       |
| 16  | 熱田区版「ゴジカラ村」プロジェクト              | 多世代交流や井戸端会議などの場や機会をつくりたい！                          |
| 17  | 赤ちゃんとのふれあい会プロジェクト              | 子育て中の親の孤立を予防したい！                                   |
| 18  | 熱田区版「超人スポーツ」プロジェクト             | 年齢や障害の有無にかかわらずすべての人が一緒に楽しめるスポーツを実施したい！             |
| 19  | ちょっとした外出に付き添ってくれるグループづくりプロジェクト | 地域サロンや認知症カフェへのデビューを支援したい！<br>ガイドヘルプができるグループをつくりたい！ |
| 20  | あったか食サポートプロジェクト                | 「食」とおして子ども食堂のお手伝いをしたい！                             |

上記以外にあなたが「やってみたい！」と考えているプロジェクトのアイデアがありましたら、是非、「つながりあったかいぎ(p.10)」で聞かせてください！

## 第5次熱田区地域福祉活動計画 策定作業委員会 名簿

(順不同、敬称略)

|       |        |                                |
|-------|--------|--------------------------------|
| 1     | 脇田 信二  | 高蔵民生委員児童委員協議会 会長               |
| 2     | 松岡 信男  | 熱田区身体障害者福祉協会 会長                |
| 3     | 竹内 江里加 | 熱田区身体障害者福祉協会 副会長               |
| 4     | 奥村 幸子  | 熱田区手をつなぐ育成会 会長                 |
| 5     | 竹田 篤史  | 生活介護事業所シンフォニー 施設長              |
| 6     | 玉川 貴子  | 名古屋学院大学現代社会学部 准教授              |
| 7     | 伊藤 友美  | Man to Man Passo 株式会社 就労相談支援室長 |
| 8     | 西川 里子  | 公募委員                           |
| 9     | 中田 素生  | 公募委員                           |
| 10    | 池田 和   | 公募委員                           |
| 11    | 森 智香子  | 熱田区役所福祉課 主査                    |
| 12    | 鈴木 啓吾  | 熱田区役所福祉課 主事                    |
| 13    | 松岡 悠里衣 | 熱田区役所福祉課 主事                    |
| 14    | 山村 由美子 | 熱田保健センター 保健師                   |
| 15    | 岡本 有佳  | 熱田区いきいき支援センター 見守り支援員           |
| 16    | 犬飼 博子  | 熱田区介護保険事業所 ミドルマネジャー            |
| 17    | 久野 寿枝  | 熱田区障害者基幹相談支援センター センター長         |
| 18    | 田中 光   | 熱田福祉会館 主事                      |
| 19    | 林 拓郎   | 熱田児童館 主事                       |
| 20    | 鬼頭 史樹  | 熱田区社会福祉協議会 重層的支援体制整備事業担当主事     |
| 21    | 荒川 洋子  | 熱田区社会福祉協議会 地域福祉推進スタッフ          |
| 22    | 玉置 郁名  | 熱田区社会福祉協議会 地域福祉推進スタッフ          |
| 事務局   | 小泉 詩乃  | 熱田区社会福祉協議会 コミュニティソーシャルワーカー     |
| 事務局   | 田中 和快  | 熱田区社会福祉協議会 次長                  |
| SV(※) | 山下 匡将  | 名古屋学院大学現代社会学部 准教授              |

(※)スーパーバイザー、学識経験者







## 第5次 熱田区地域福祉活動計画

「ぬくといつながり」のある暮らし。

発行日 令和6年■月

発行 社会福祉法人 名古屋市熱田区社会福祉協議会

〒456-0031 名古屋市熱田区神宮3丁目1-15

TEL：052-671-2875 FAX：052-671-4019

# 熱田区地域福祉活動計画